

第3章 裾野市の現状

1. 裾野市の概況

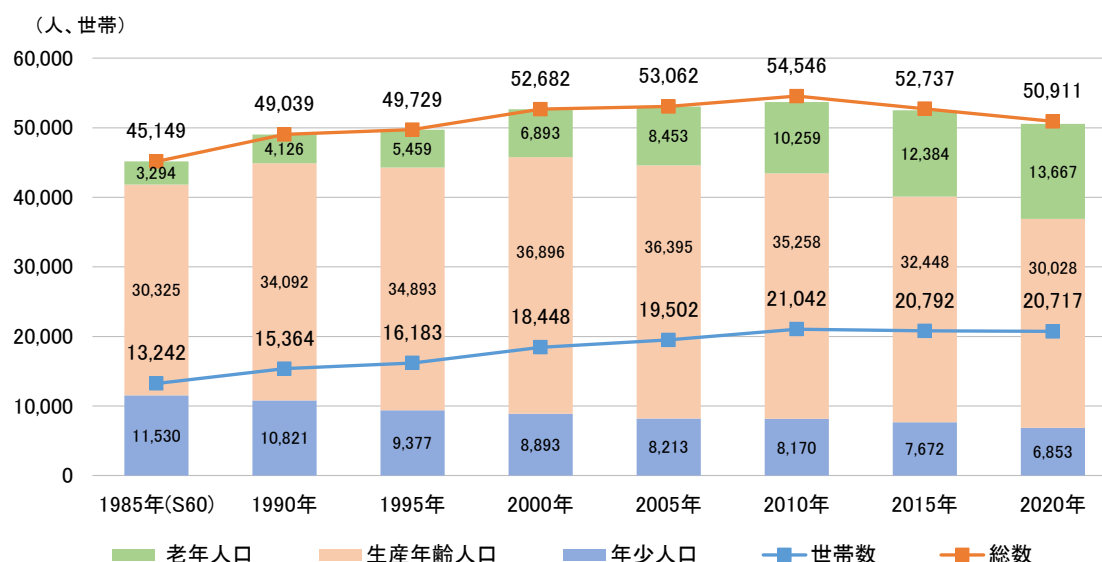
(1) 人口

①人口・世帯数の動向

本市の人口は、2010年までの微増傾向から2015年には減少に転じており、2020年は50,911人となっています。0～14歳の年少人口は減少傾向にあり、15～64歳の生産年齢人口も2000年をピークに減少しています。65歳以上の老年人口は大幅に増加し、2020年には1985年の4倍以上になっています。

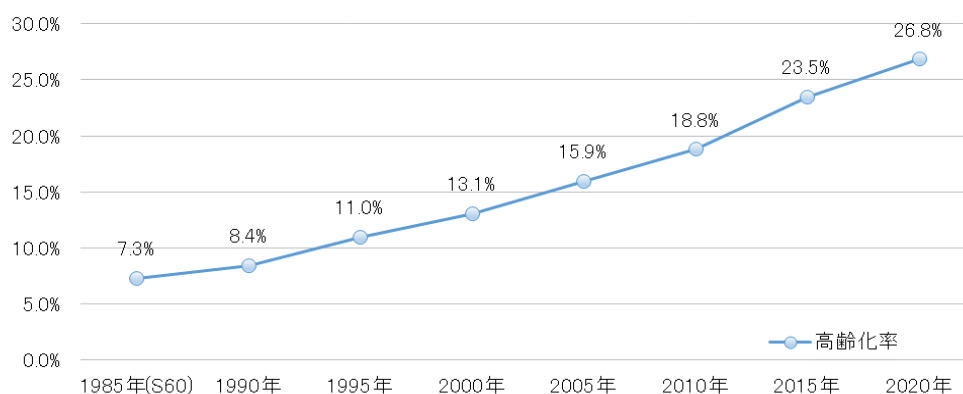
また、1985年に7.3%であった高齢化率は、2020年には26.8%となり、高齢化が加速的に進んでいます。

■人口・世帯数の推移



出典 国勢調査

■高齢化率の推移



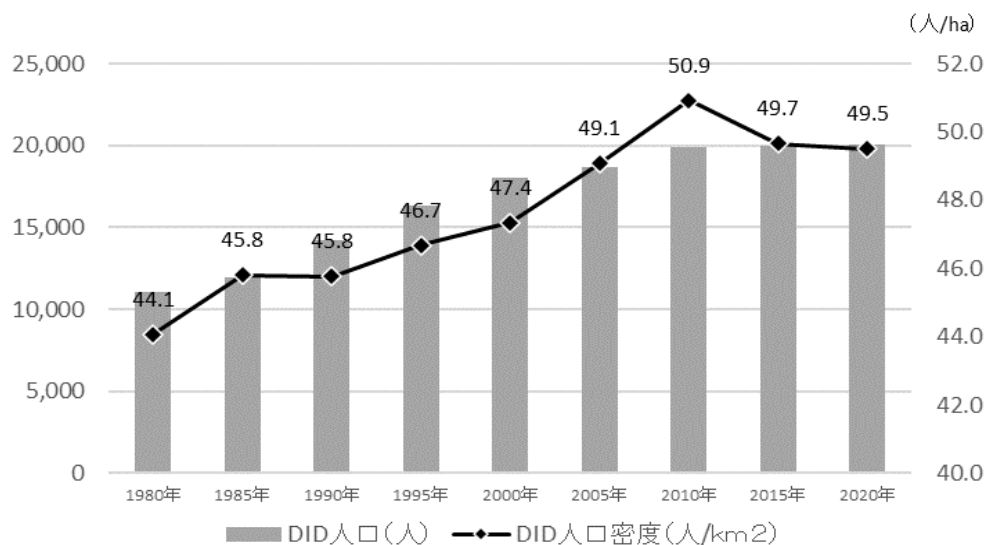
出典 国勢調査

②人口集中地区の推移

人口集中地区（DID 区域）は市域南部の裾野駅を中心とする鉄道路線周辺に指定されています。1980 年と 2020 年の DID 区域と比較すると、面積は拡大しています。

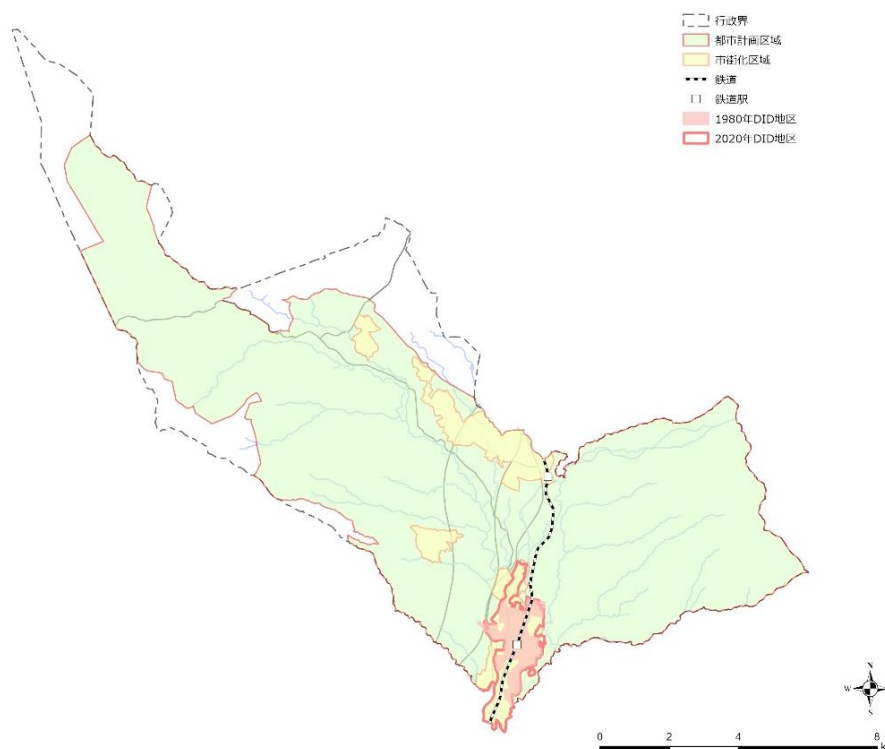
1980 年の DID 人口密度 44.1 人/ha と比較すると、2010 年には 50.9 人/ha まで拡大しており、高密度な市街地が形成されています。しかしながら、2020 年には 49.5 人/ha にまで減少しています。

■人口集中地区の人口密度の推移



出典 国勢調査

■1980 年と 2020 年の人口集中地区



出典 国勢調査

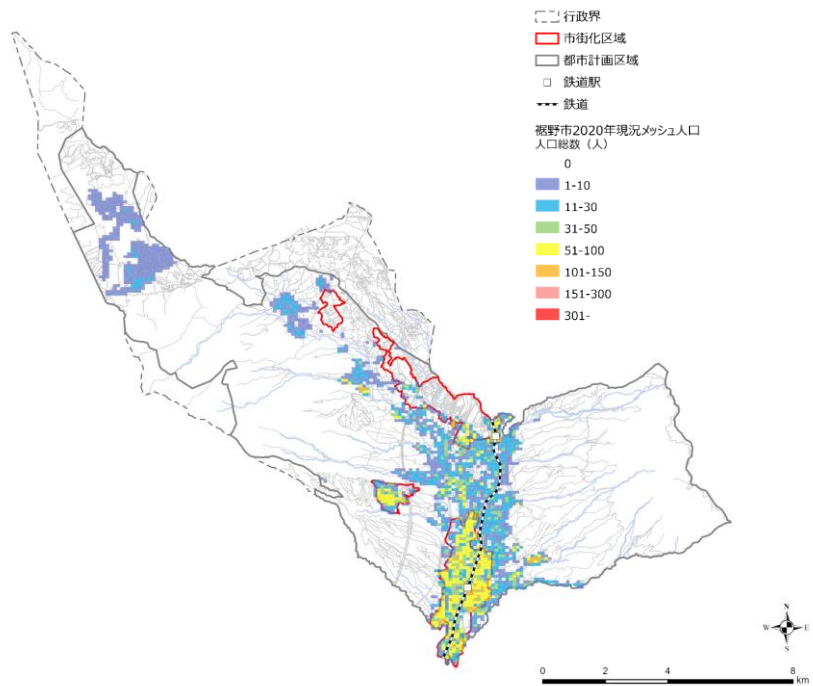
③将来の人口分布

2020 年では、市南部の市街化区域、岩波駅周辺、千福が丘住宅団地を中心に 100mメッシュ内人口 31～100 人程度で分布しており、市街化調整区域においても低密度に人口が分布しています。

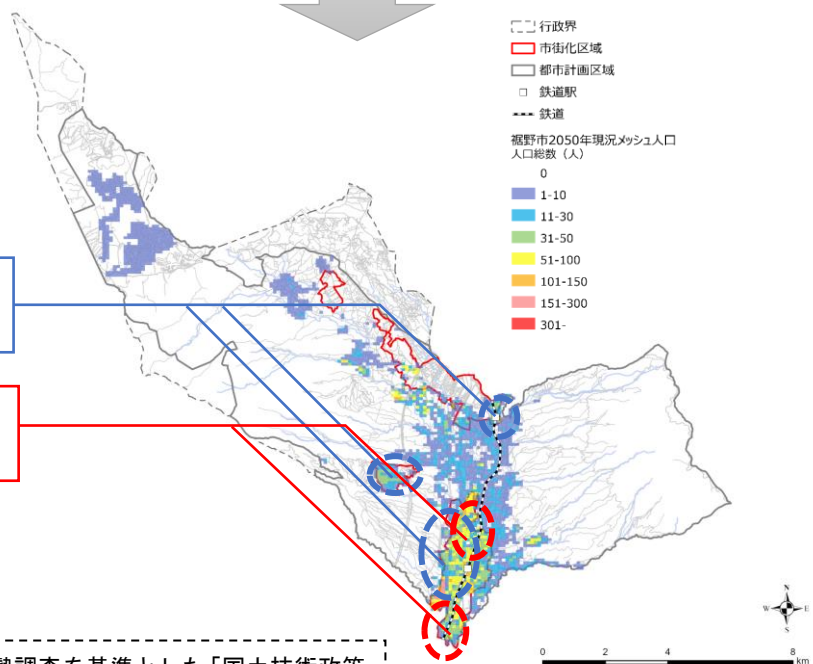
2050 年までに、裾野駅東側、岩波駅周辺、千福が丘住宅団地で人口減少が進行し、呼子住宅団地周辺や市北部の市街化区域周辺において微減することが予想されます。一方で裾野駅北側、市南部の長泉町と接している地域で人口増加することが予想されます。

■将来の人口分布（2020 年⇒2050 年）

2020 年人口分布



2050 年人口分布



裾野駅東側、岩波駅周辺、千福が丘住宅団地で人口減少が進行

裾野駅北側、市南部の長泉町と接している地域で人口増加

※100mメッシュ分析は令和2年国勢調査を基準とした「国土技術政策総合研究所」による将来人口・世帯予測ツールを活用して算出

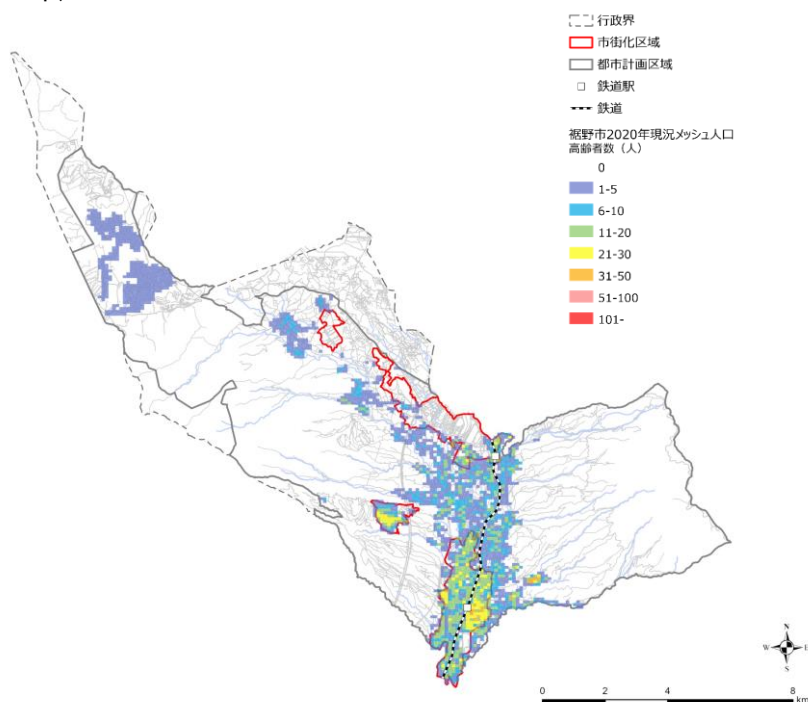
④将来の高齢者分布

2020 年では、千福が丘住宅団地においてメッシュ内高齢者数が 21 人以上の地域が分布し、裾野駅北西側においてもメッシュ内高齢者数が 11 人以上の地域が分布しています。

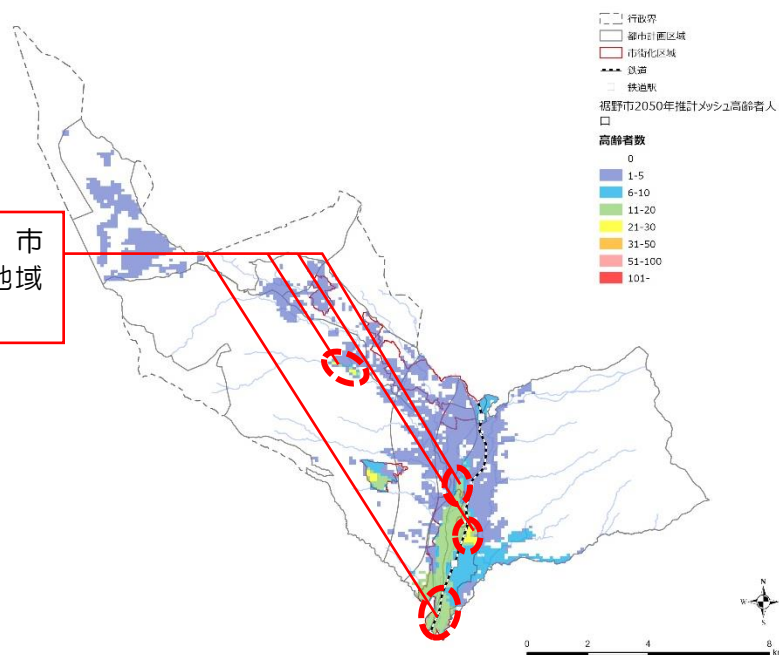
2050 年には、裾野駅北東側や呼子住宅団地、市南部の長泉町と接している地域で高齢者が増加することが予想されます。

■将来の高齢者分布（2020 年⇒2050 年）

2020 年高齢者分布



2050 年高齢者分布



裾野駅北東側や呼子住宅団地、市南部の長泉町と接している地域で高齢者が増加

(2) 土地利用

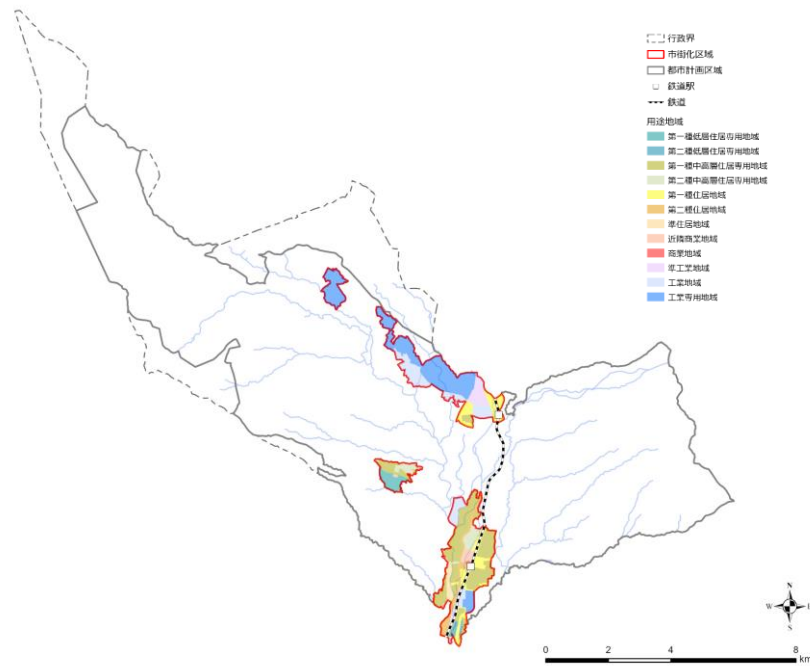
①土地利用規制

本市の都市計画では、都市計画区域 11,381.0ha が決定されており、市街化区域が 1,043.4ha、市街化調整区域が 10,337.6ha となっています。

裾野駅周辺の市街化区域は、裾野駅を中心に商業系用途地域が指定されており、その周辺に住居系用途地域が指定されています。岩波駅周辺は主に工業系用途地域が指定されており、その周辺に住居系用途地域が指定されています。

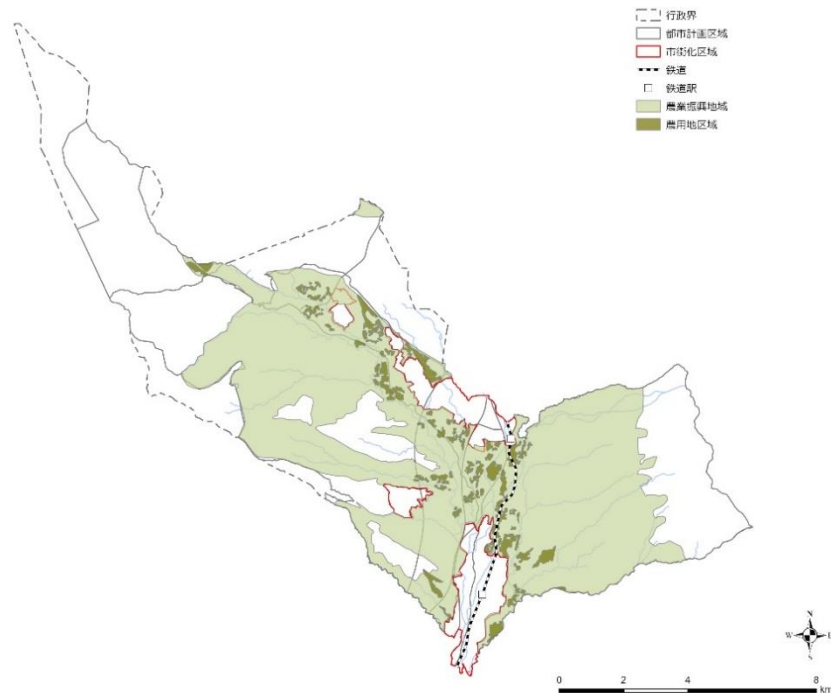
市街化調整区域は、ほとんどが農業振興地域に指定されています。

■用途地域



出典 国土数値情報

■農業振興地域・農用地区域



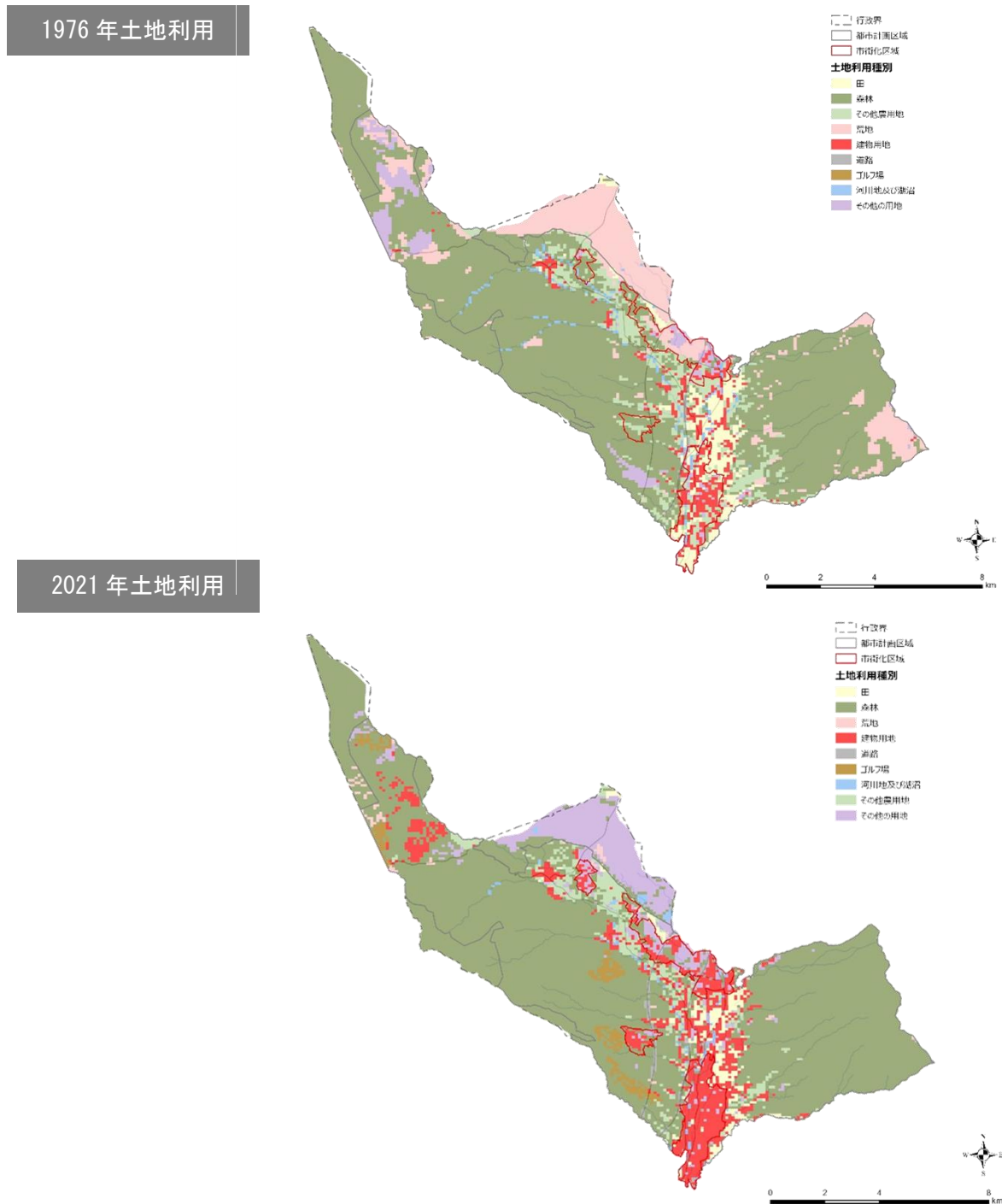
出典 国土数値情報

②土地利用の動向

1976 年と 2021 年の土地利用を比較すると、市域に多く存在した荒地が、森林や建物用地、その他の用地などに転換されています。1976 年には、市中心部の鉄道路線周辺に多くの田が存在していましたが、2021 年にはその多くが建物用地へと転換されています。

富士山の麓の森林であった地域には、広大なサファリパーク等のレジャー施設が建設されています。市全体を見ても、自然的土地利用から建物用地など都市的土地利用への転換が多く見られ、市街地（市街化区域）のみならず、郊外（市街化調整区域）にも都市的土地利用が拡大しています。

■土地利用動向（1976 年⇒2021 年）

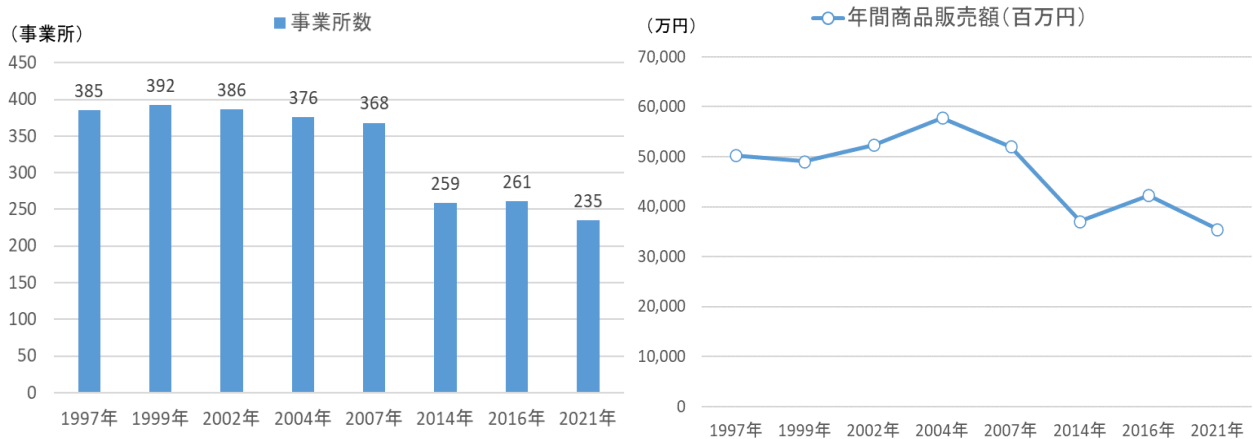


(3) 経済活動

①商業の動向

小売業の事業所数と年間商品販売額の推移をみると、事業所数は1999年以降減少傾向にあり、2021年では235事業所となっています。年間商品販売額は、2004年まで増加傾向にあったものの、2007年で減少に転じ、2021年には年間約355億円となっています。

■小売業の事業所数・年間商品販売額の推移

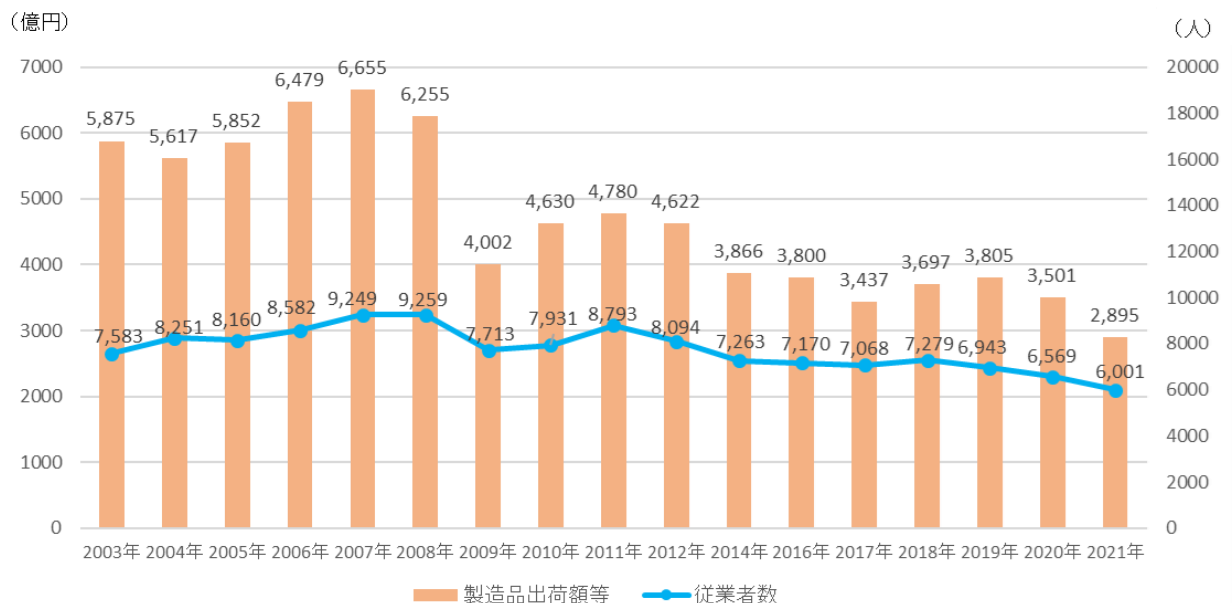


出典 商業統計調査

②工業の動向

事業所の従業者数と製造品出荷額等の推移をみると、2008年のリーマンショック後の影響が大きく、2009年に製造品出荷額等が大きく落ち込んでいます。その後、徐々に回復しつつも、近年は減少傾向にあり、2021年で従業員数が6,001人、製造品出荷額等が約2,900億円となっています。

■事業所の従業者数・製造品出荷額等の推移



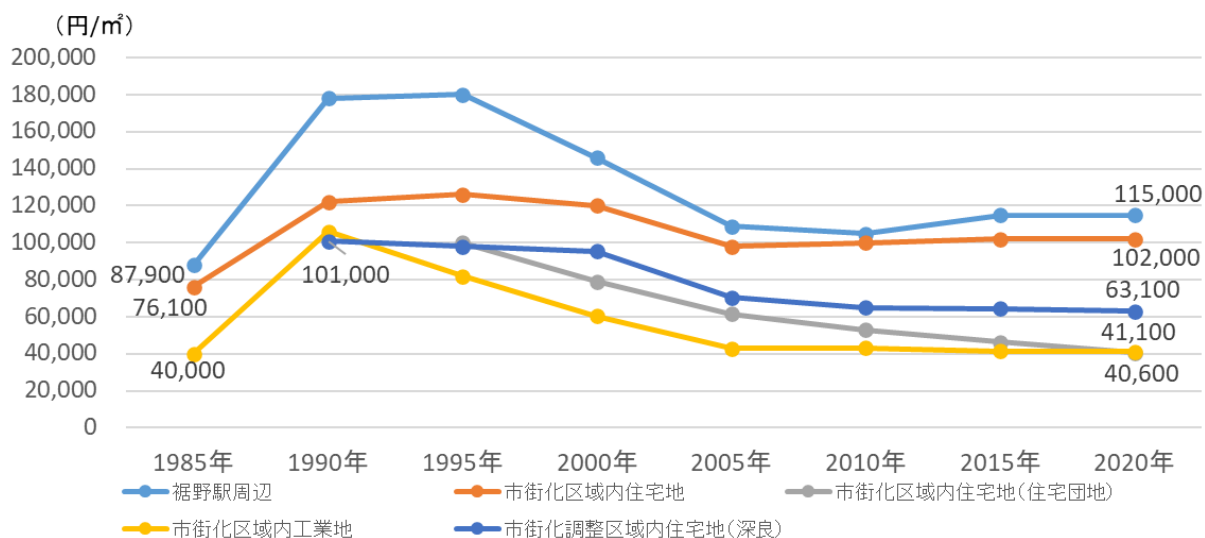
出典 工業統計調査 経済センサス-活動調査

③地価の動向

1985年から2020年までの地価の推移をみると、裾野駅周辺では1995年に180,000円/㎡まで上昇しましたが、2000年以降は下落傾向にあります。2005年以降は、市街化区域内住宅地（住宅団地）で下落していますが、その他の地区はほぼ横ばいで推移しています。

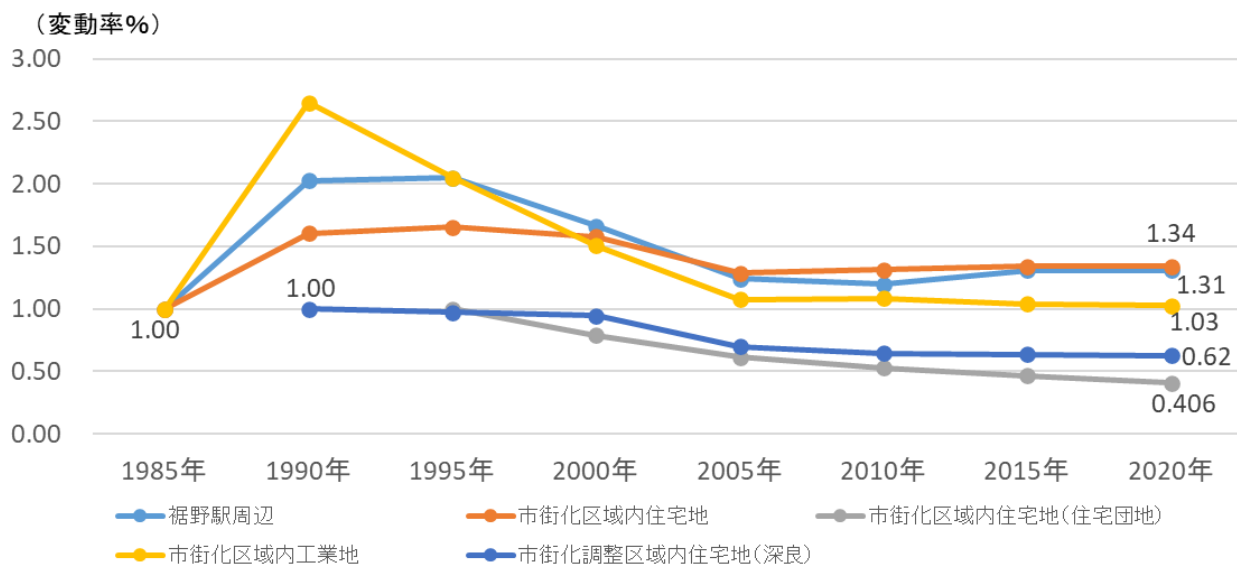
2020年の地価をみると、裾野駅周辺で最も高く115,000円/㎡となっています。次いで、市街化区域内住宅地が102,000円/㎡、市街化調整区域内住宅地（深良）が63,100円/㎡となっています。

■地価の推移



出典 令和2年都市計画基礎調査

■地価（変動率）の推移



出典 令和2年都市計画基礎調査

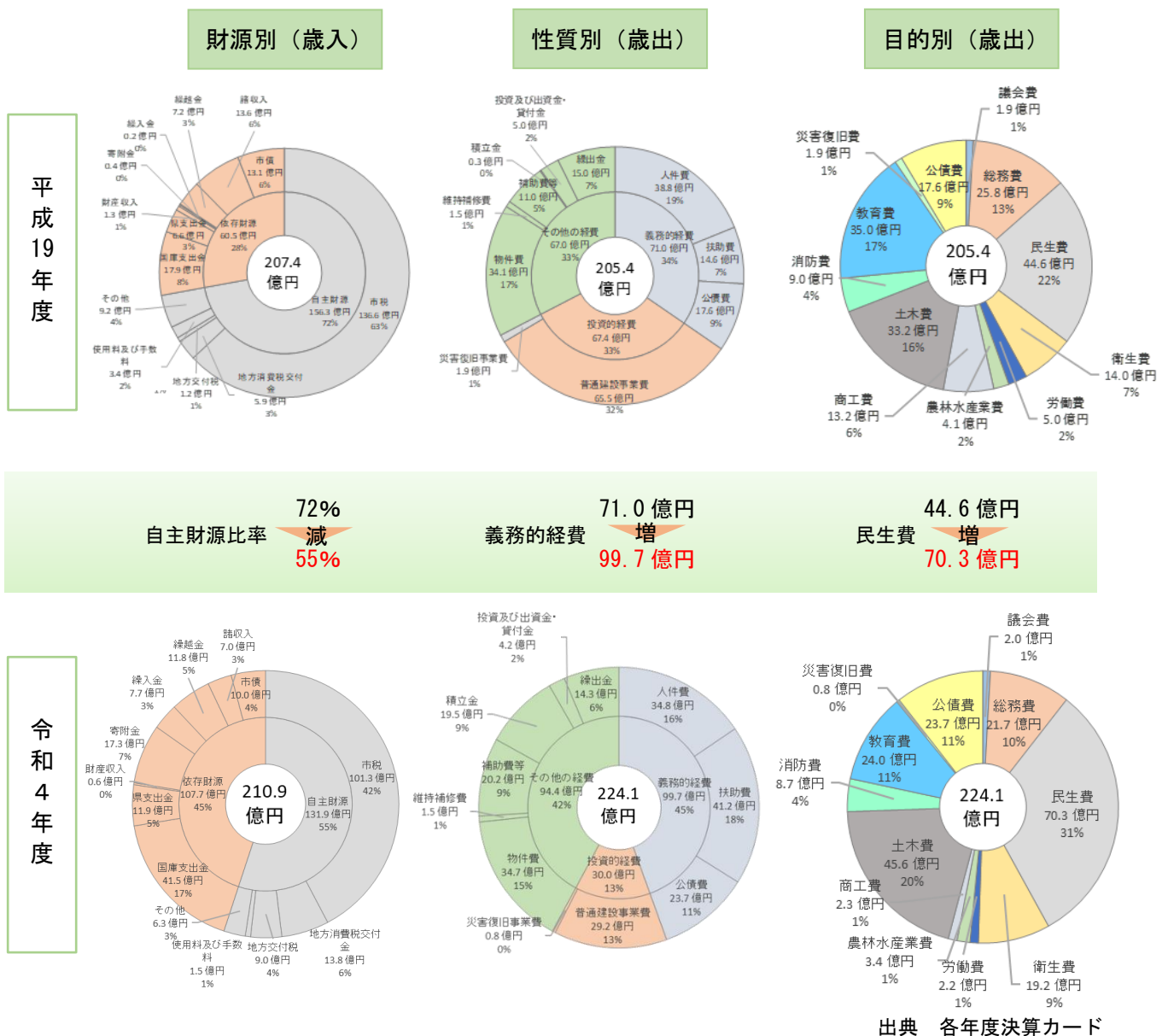
(4) 財政

①歳入・歳出構造

令和4年度（2022年度）の歳入額は、平成19年度（2007年度）と比較して、歳入全体としては増加していますが、市債や県支出金などの依存財源の割合が増加しており、自主財源の割合が減少しています。

令和4年度（2022年度）の歳出額は、平成19年度（2007年度）より増加しており、性質別の扶助費（住民福祉の増進に係る経費等）などの義務的経費や、目的別の民生費が大幅に増加しています。

■歳入・歳出の推移



2. 市民意向

(1) 調査概要

市民アンケート調査は、日常的な生活行動、公共交通の利用状況やサービスに対する満足度、生活利便施設や公共交通の利用意向及び公共交通の維持・確保意向等を把握し、今後のコンパクトシティのあり方を検討するにあたっての基礎資料として活用するために実施しました。

調査対象者	住民基本台帳から無作為抽出した 15 歳以上の市民 2,000 人
調査方法	郵送配布、郵送回収 ※アンケート調査発送後、後日御礼と催促を兼ねた葉書を発送
調査日	平成 28 年 9 月 28 日（水）～平成 28 年 10 月 11 日（火）
調査項目	①回答者の属性（性別、年齢、職種、居住地、自宅近くのバス停の有無と徒歩距離、自宅から歩いて行けるバス停までの距離、自動車運転免許証有無、運転免許返納意向） ②移動に対する現在の外出状況及び将来の不安度（目的別） ③日常的な交通行動について ○外出目的別交通行動（主な行き先、交通手段、外出頻度） ○自宅から外出する際の所要時間（目的別） ○自宅から徒歩で移動する場合の可能所要時間 ④バス（すそのーる、路線バス）の利用状況等（利用頻度、利用目的、利用しない理由、サービスに対する満足度） ⑤鉄道（JR 御殿場線等）の利用状況等（主な利用駅、利用目的、サービスに対する満足度） ⑥タクシーの利用状況等（利用頻度、利用目的、サービスに対する満足度） ⑦公共交通の利用意向（公共交通を利用して行きたい場所（上位 3 位を回答）、利用目的、利用頻度） ⑧公共交通の維持・確保のあり方（公共交通の取組みの方向性、維持・充実するための方法、効果的な公共交通の利用促進策） ⑨今後のまちづくりの取組み（生活する上で必要な施設）
回収状況	回収票数 1,033 票（回収率 51.7%）

（注）比率は全て百分率（%）で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しているため、合計が 100%にならない場合がある。



(2) 調査結果

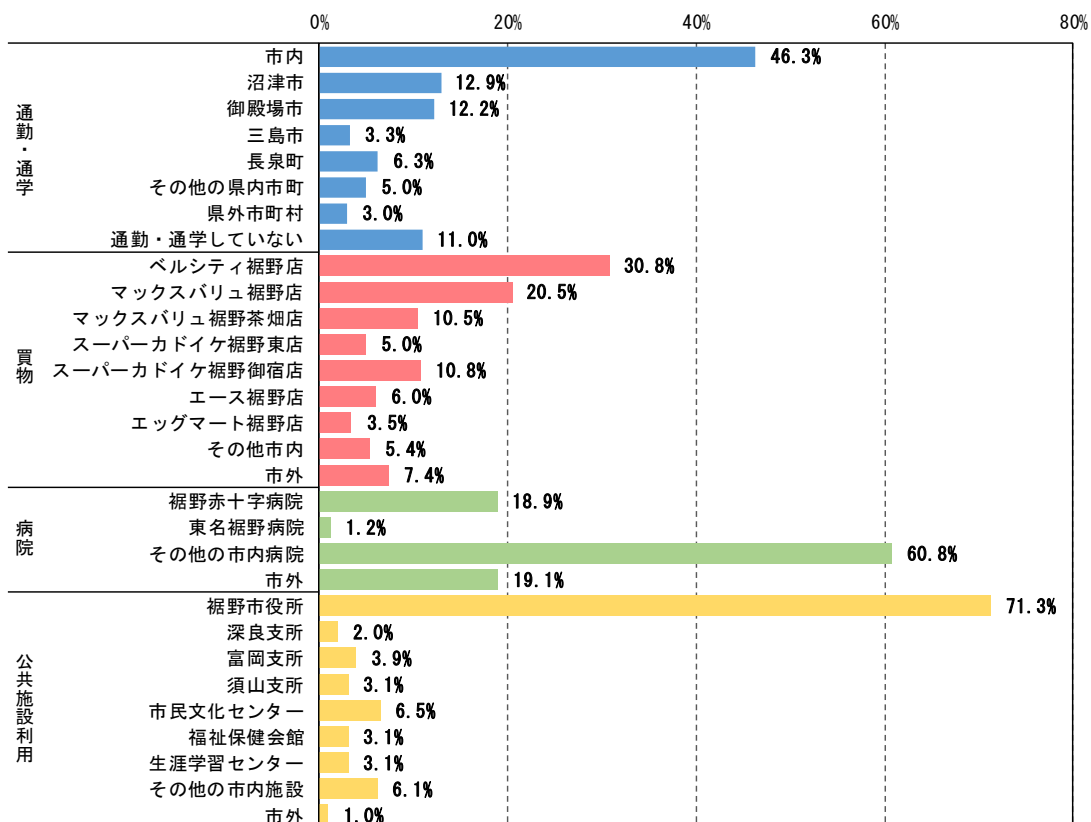
①外出目的別外出行動

主な行き先は、通勤・通学では市内が、買物ではベルシティ裾野店が、通院ではその他の市内病院が、公共施設利用では裾野市役所が多くなっており、日常生活においても重要な施設といえます。

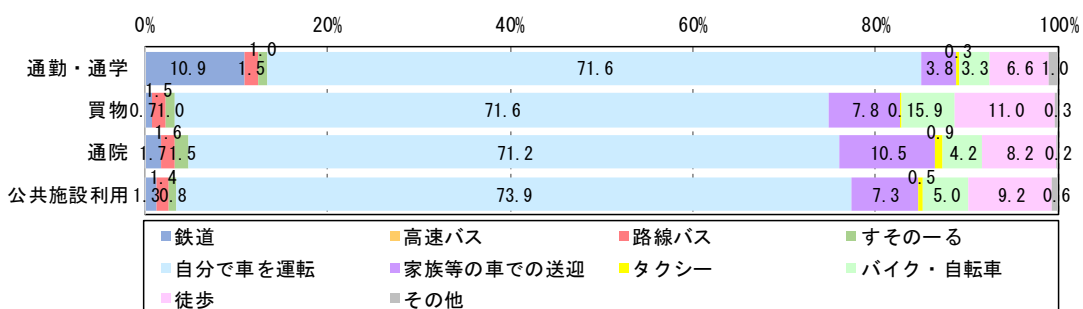
しかしながら、主に利用している交通手段は、各目的で「自分で車を運転」が7割以上と高く、買物、通院、公共施設利用を目的とした交通手段は、公共交通の利用は5%未満と少ない状況です。

一方で、年齢別に見ると、各目的で若年層（10歳代）や70歳以上の高齢者で鉄道や路線バスの割合が高くなっており、高齢化が進む中で、今後は公共交通の利用ニーズが高まることが予想されます。

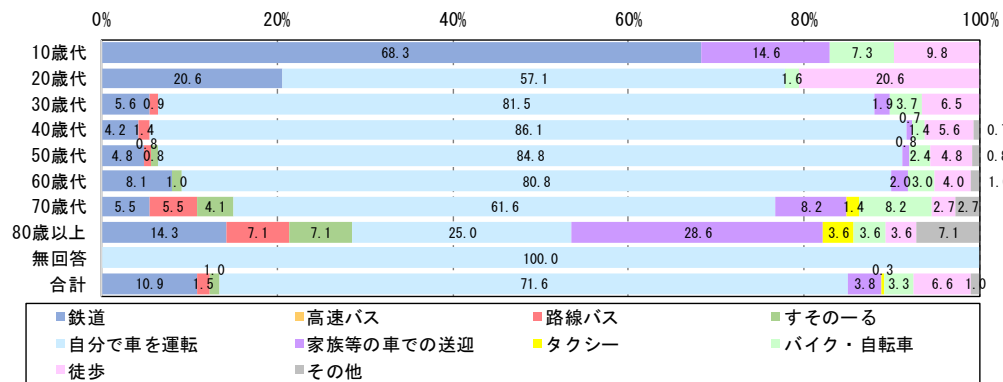
■外出目的別の主な行き先



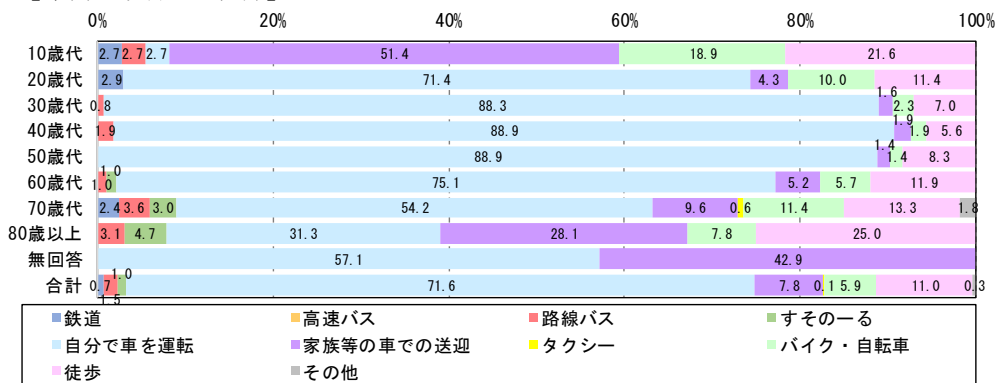
■外出時の主な利用交通手段



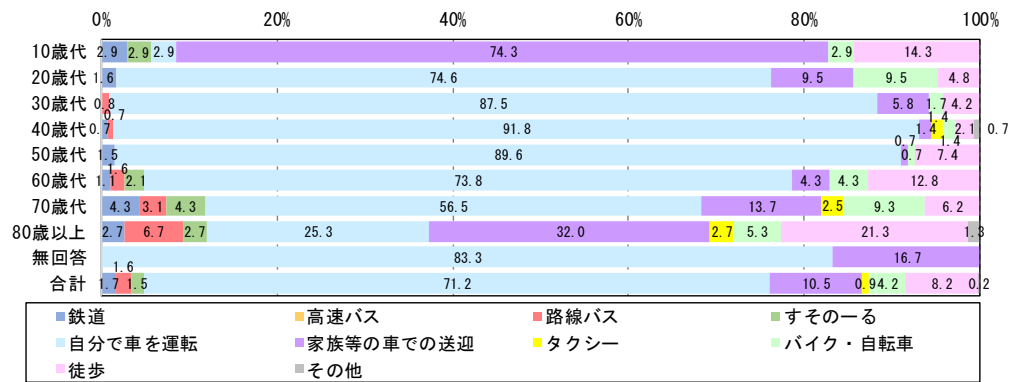
[年齢別通勤・通学の場合]



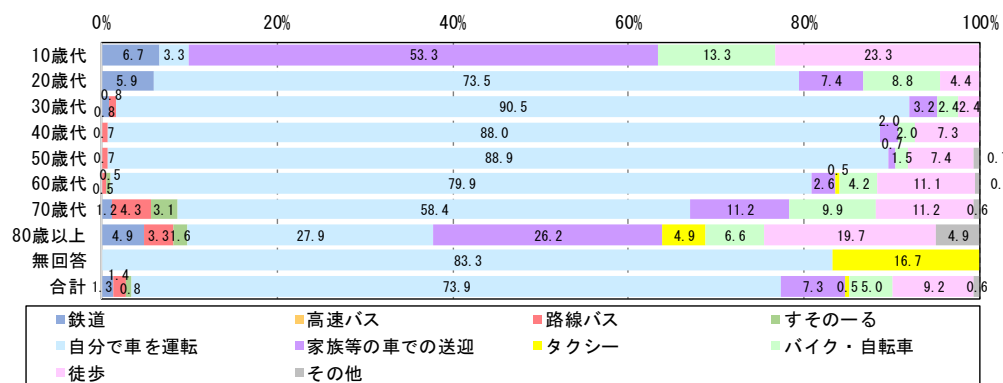
[年齢別買物の場合]



[年齢別通院の場合]



[年齢別公共施設利用の場合]

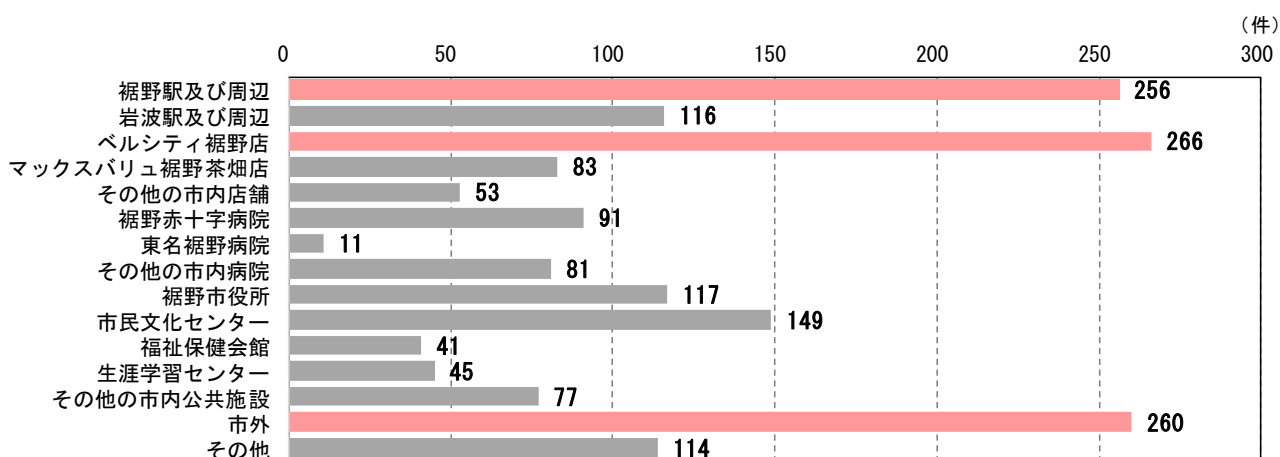


②公共交通の利用意向

バス等を利用して行きたい場所は、「ベルシティ裾野店」の266件、「市外」の260件、「裾野駅及び周辺」の256件の順で多くなっています。地区別に見ると、東地区と西地区は「裾野駅及び周辺」が、富岡地区と深良地区は「ベルシティ裾野店」が、須山地区は「市外」が最も多くなっており、市内においては裾野駅周辺の市街地までの公共交通の利用意向が高いことがうかがえます。

「裾野駅及び周辺」と「岩波駅及び周辺」に着目して利用目的をみると、「趣味・娯楽」、「買物」、「通勤」が多くなっており、利用目的に応じた駅周辺への機能誘導と公共交通の利用促進が求められます。

■バス等を利用して行きたい場所



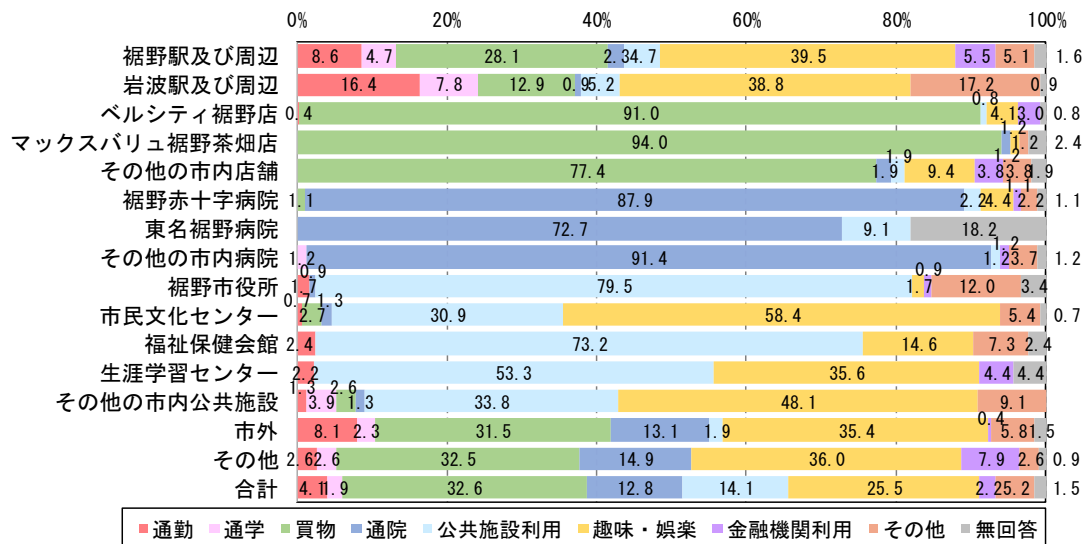
	1 番目	2 番目	3 番目	合計		東地区	西地区	深良地区	富岡地区	須山地区	無回答	合計
裾野駅及び周辺	161	59	36	256	裾野駅及び周辺	70	63	28	73	3	19	256
岩波駅及び周辺	52	51	13	116	岩波駅及び周辺	12	8	20	54	12	10	116
ベルシティ裾野店	143	76	47	266	ベルシティ裾野店	67	48	34	88	12	17	266
マックスバリュ裾野茶畑店	33	34	16	83	マックスバリュ裾野茶畑店	31	18	16	11	2	5	83
その他の市内店舗	16	19	18	53	その他の市内店舗	13	12	6	14	3	5	53
裾野赤十字病院	24	34	33	91	裾野赤十字病院	21	17	13	28	7	5	91
東名裾野病院	4	2	5	11	東名裾野病院	5	4	0	1	1	0	11
その他の市内病院	22	38	21	81	その他の市内病院	23	19	14	19	3	3	81
裾野市役所	13	43	61	117	裾野市役所	29	24	14	36	5	9	117
市民文化センター	50	46	53	149	市民文化センター	56	36	9	29	11	8	149
福祉保健会館	6	26	9	41	福祉保健会館	19	15	2	3	1	1	41
生涯学習センター	10	12	23	45	生涯学習センター	19	14	5	4	3	0	45
その他の市内公共施設	27	27	23	77	その他の市内公共施設	18	26	8	14	5	6	77
市外 (注1)	112	74	74	260	市外 (注1)	73	66	21	62	16	22	260
その他	44	35	35	114	その他	23	38	7	30	9	7	114

※回答にあたっては、優先順位が高い順に「1 番目」～「3 番目」まで、3つの選択肢を記入していただいた。

注 1) 「市外」の内訳

内訳	件数
三島市（三島駅、イトーヨーカ堂三島店等）	59
沼津市（沼津駅、沼津市立病院等）	43
御殿場市（御殿場駅、御殿場プレミアムアウトレット等）	34
清水町（サントムーン柿田川、静岡医療センター等）	32
長泉町（ウェルディ長泉、山本整形外科医院等）	15
東京方面	7
その他（市外）	23

■利用目的

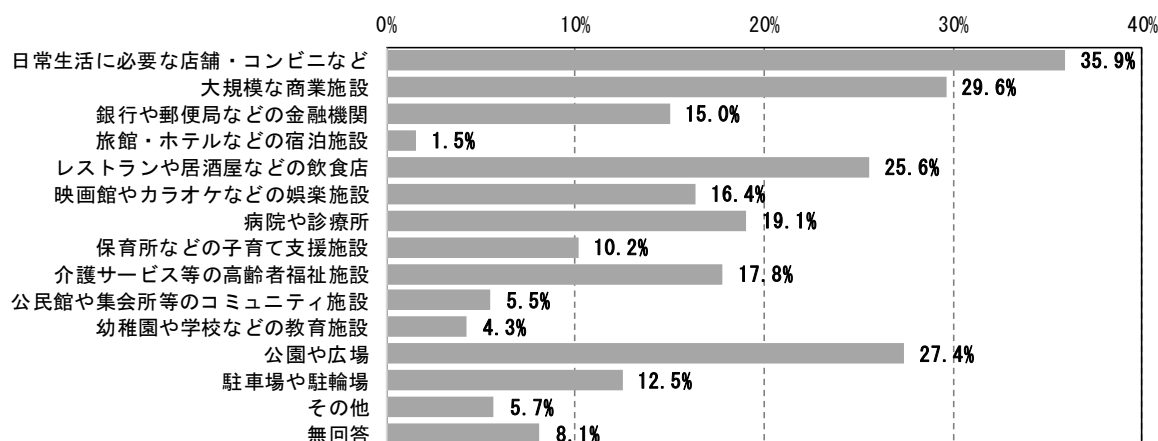


③生活する上で必要な施設

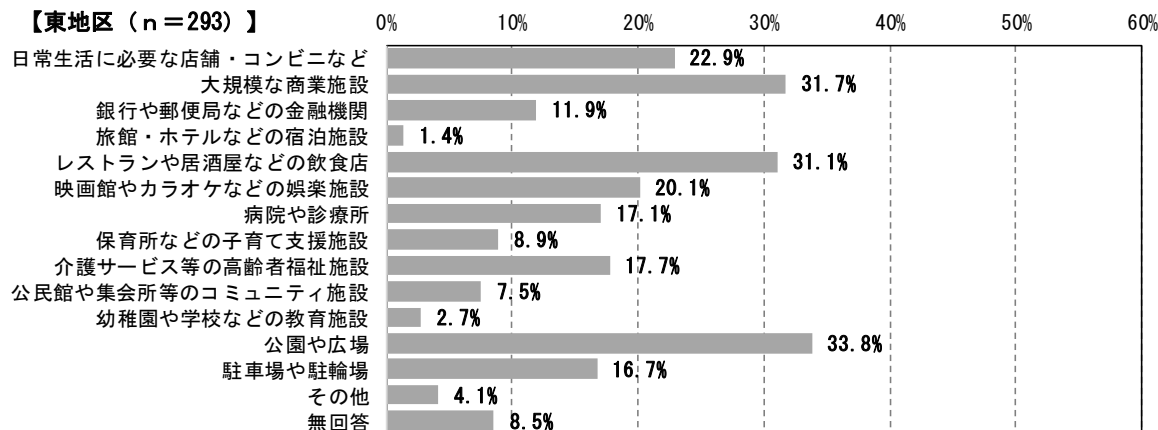
住まいの地区で生活する上で必要な施設は、「日常生活に必要な店舗・コンビニなど（35.9%）」、「大規模な商業施設（29.6%）」、「公園や広場（27.4%）」の順で多くなっています。

地区別に比較すると、東地区や西地区は「日常生活に必要な店舗・コンビニなど」、「大規模な商業施設」、「レストランや居酒屋などの飲食店」、「公園や広場」が20～30%程度を占めています。深良地区、富岡地区、須山地区は「日常生活に必要な店舗・コンビニなど」が全体の50%程度を占めています。

■生活する上で必要な施設（n=1,033）



【東地区（n=293）】



【西地区（n=252）】

